

海外の畜産物の需給動向

牛肉

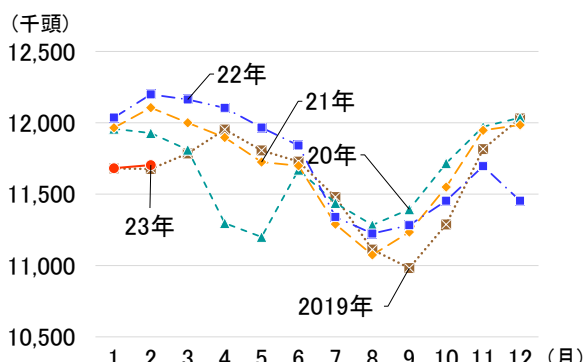
米 国

22年の牛肉輸出量は過去最高を記録

23年1月の牛総飼養頭数は前年比3.0%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年1月のフィードロット導入頭数は193万2000頭（前年同月比3.6%減）とやや減少し、出荷頭数は184万7000頭（同4.2%増）とやや増加した。この結果、23年2月1日時点のフィードロット飼養頭数は1170万4000頭（同4.1%減）と前年同月をやや下回った（図1）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」
注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注2：各月1日時点。

USDA/NASSが半年に一度公表する「Cattle」によると、23年1月1日時点の牛総飼養頭数は8927万4000頭（前年比3.0%減）となった（表1）。これは、1962年以来最少の頭数となった。また、22年から続く干ばつにより繁殖雌牛の淘汰が進んだこと

で、肉用繁殖雌牛（経産牛）の飼養頭数は同3.6%減、肉用繁殖後継牛（未經産牛）は同5.8%減となっている。23年の総飼養頭数見通しについてUSDAは、干ばつと飼料価格の高騰が牛群拡大の障壁になると述べ、年間を通じて引き続き総飼養頭数の減少が見込まれるとしている。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2022年	23年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	92,077	89,274	▲ 3.0%
繁殖雌牛	39,360	38,320	▲ 2.6%
肉用牛	29,983	28,918	▲ 3.6%
乳用牛	9,377	9,403	0.3%
未經産牛 ※1	19,916	19,173	▲ 3.7%
肉用後継牛	5,482	5,164	▲ 5.8%
乳用後継牛	4,441	4,337	▲ 2.3%
その他	9,994	9,672	▲ 3.2%
去勢牛 ※1	16,705	16,132	▲ 3.4%
種雄牛 ※1	2,110	2,029	▲ 3.8%
子牛 ※2	13,986	13,621	▲ 2.6%

資料：USDA「Cattle」
注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。
注2：各年1月1日現在。

23年1月の肥育牛価格は高値で推移

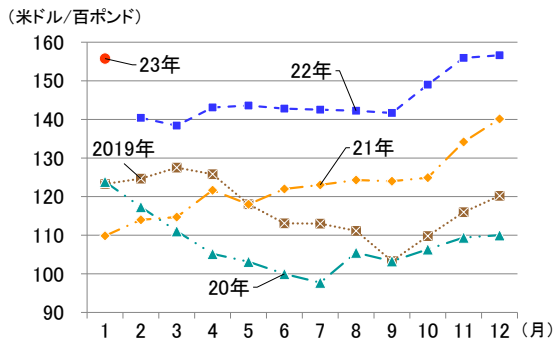
USDA/NASSによると、2023年1月の牛と畜頭数は282万7900頭（前年同月比6.8%増）とかなりの程度増加した。また、同月の牛肉生産量は105万5100トン（同

2.6%増)と前年同月をわずかに上回った。と畜頭数はかなりの程度増えたものの、寒波による生育不良や早期と畜により、同月の平均枝肉重量が同1.9%減少したことから、生産量はわずかな増加にとどまった。

米国農務省経済調査局(USDA/ERS)によると、同月の肥育牛価格は100ポンド当たり155.76米ドル(1キログラム当たり471.58円:1米ドル=137.33円^(注))と、前月から0.86米ドル下落したものの、堅調に推移した(図2)。肥育牛の供給不足が続く中、平均枝肉重量の低下も価格を支えているとみられる。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。

注2：2022年1月の値は、N/A値。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1~12月)	
					前年比 (増減率)	
韓国	25,174	30,297	20.4%	25.1%	365,273	3.4%
日本	28,086	29,883	6.4%	24.7%	367,827	▲1.1%
中国	22,732	14,426	▲36.5%	11.9%	286,340	16.8%
メキシコ	12,800	13,249	3.5%	11.0%	128,575	▲10.3%
カナダ	14,199	9,945	▲30.0%	8.2%	124,185	▲1.9%
台湾	8,521	6,112	▲28.3%	5.1%	90,830	2.8%
香港	3,064	2,881	▲6.0%	2.4%	36,705	▲35.1%
フィリピン	759	1,224	61.3%	1.0%	26,833	67.6%
その他	14,498	12,723	▲12.2%	10.5%	177,490	14.5%
合計	129,833	120,742	▲7.0%	100.0%	1,604,058	3.1%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

22年12月の牛肉輸出量は韓国向けが大幅増

USDA/ERSによると、2022年12月の牛肉輸出量は12万742トン(前年同月比7.0%減)とかなりの程度減少した(表2)。輸出先別に見ると、韓国向け(同20.4%増)が大幅に増加したものの、中国(同36.5%減)を含む多くの輸出先で前年同月を下回った。米国食肉輸出連合会(USMEF)によると、韓国では実店舗・Eコマースの双方で牛肉の小売需要が増加した一方、中国では新型コロナウイルスの感染者数が増加したこともあり、消費が伸び悩んだためと分析している。こうした中、22年1~12月の累計輸出量は、160万4058トン(前年比3.1%増)と過去最高を記録した。23年の輸出量についてUSDAは、牛肉生産量の減少により供給不足と価格上昇が見込まれることや、豪州産牛肉との競争が見込まれることなどから、前年比12.6%減の140万2000トンと予測している。

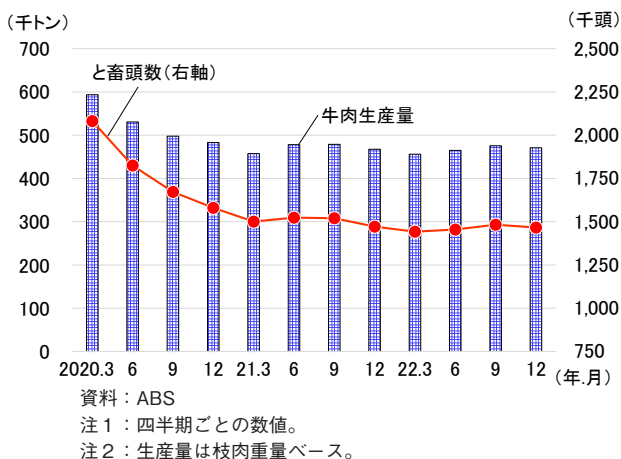
豪州

22年のと畜頭数は低水準も、23年の牛肉輸出量は増加の兆し

22年のと畜頭数は1984年以來の低水準

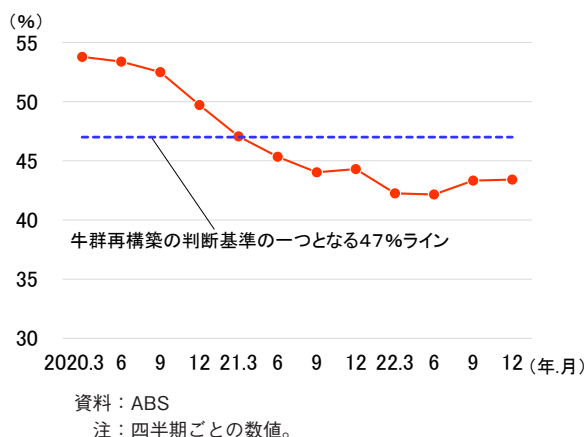
豪州統計局（ABS）が2023年2月に公表した統計によると、22年10～12月期の牛のと畜頭数は147万頭（前期比1.1%減）、通年では585万頭（前年比2.8%減）といずれもわずかに減少した（図1）。豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、これは1982～83年に発生した20世紀で最も深刻とされる干ばつの影響を受けた84年以來となる最低の水準であったとしている。他方で同期の牛肉生産量は47万トン（前期比1.0%減）、通年では187万トン（前年比0.8%減）となった。雨が多く飼料確保が容易であったため1頭当たり枝肉重量が高水準であったことから、と畜頭数の減少を一部相殺する状況となった。

図1 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



また、同期の雌牛のと畜頭数割合は、43.4%と前期比で0.9ポイント上昇したが、通年平均では42.8%と低下傾向にあり、降雨によって潤沢な牧草があることを背景として、牛群再構築の進展がうかがえる状況にある（図2）。

図2 雌牛と畜割合（FSR）の推移



他方で豪州フィードロット協会（ALFA）によると、同期のフィードロット飼養頭数は、牛と穀物の価格が軟化したことを背景に、114万5228頭（前期比8.4%増）とかなりの程度増加した（注1）。MLAによると、22年のフィードロットへの導入頭数が多かったことなどから、23年も引き続き穀物肥育牛の供給が活発となることが予想されるとしている。

（注1）海外情報「2022年12月末フィードロット飼養頭数、2期連続の減から回復（豪州）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003467.html)を参照されたい。

肉牛価格は過去5カ年平均を下回る

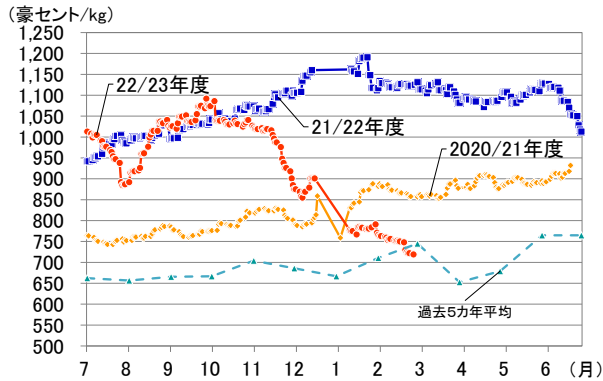
肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年10月を頂点に下落傾向にある（図3）。23年2月27日時点の同価格は、1キログラム当たり719豪セント（675円：1豪ドル=93.90円（注2））となり、23年2月下旬以降は過去5カ年平均を下回る水準にある。

業界アナリストによると、米国や中国での豪州産牛肉の需要が低迷していることに加え、豪州気象庁による今後のラニーニャ現象の収束と平年並みの降雨予報などを踏まえ、

牧草量に応じた牛を確保する観点から、牧草肥育業者からの牛の購入需要が低迷しているとしている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図3 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

牛肉輸出量は大幅に増加

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年1月の牛肉輸出量は5万1471トン（前年同月比18.7%増）と大幅に増加した（表）。例年1月は年末年始の休暇や食肉処理施設のメンテナンスなどにより、輸出量は低い水準となる傾向にあるが、今年は牛群再構築が完了したことで、前年同月から大きく増

アルゼンチン

22年の牛肉輸出量、輸出額ともに増加

22年の牛肉生産量は2年ぶりに増加

アルゼンチン経済省によると、2022年の牛肉生産量は313万4000トン（前年比5.1%増）と前年をやや上回り、2年ぶりの増加となった（図1）。また、牛と畜頭数は1349万9000頭（同3.9%増）、平均枝肉重量

加している。

MLAが同年1月に公表した見通し^(注3)によると、23年の牛肉輸出量は101万4000トンと22年から18.7%増と大幅に増加すると予想している。

(注3) 「Industry projections 2023」において、牛肉生産量の増加に伴う輸出量増加の見通しを発表した。『畜産の情報』2023年3月号「牛群再構築の完了で、23年の牛肉生産・輸出量は増加の見通し」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002614.html)を参照されたい。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 1月	23年 1月	前年同月比 (増減率)
日本	10,214	11,954	17.0%
中国	8,780	10,556	20.2%
韓国	9,288	10,125	9.0%
米国	6,758	8,953	32.5%
東南アジア	3,758	4,426	17.8%
中東	1,118	1,796	60.6%
E U	440	540	22.7%
その他	3,006	3,120	3.8%
輸出量合計	43,362	51,471	18.7%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

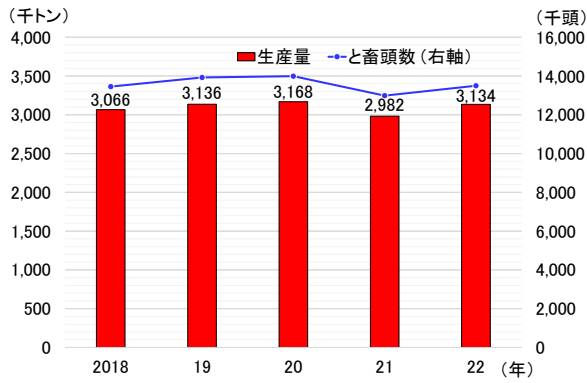
注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

(調査情報部 国際調査グループ)

は232.2キログラム（同1.1%増）となった。

これは、(1) 飼料費の高騰など生産コストの上昇(2) 牛肉の輸出規制の実施(3) インフレに伴う消費者の購買力の低下といった状況がある一方で、中国を中心とした堅調な海外需要や高水準の肉牛価格により肉牛生産者の生産意欲が高まったためとみられる。

図1 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：アルゼンチン経済省
注：枝肉重量ベース。

22年の牛肉輸出量は中国向けを中心に前年をかなり大きく上回る

アルゼンチン国家統計院によると、2022年の牛肉輸出量は62万2188トン（前年比11.1%増）と前年をかなり大きく上回り、2年ぶりの増加となった（表）。また、輸出単価が上昇（同11.7%高）した結果、輸出額は同24.1%増と前年を大幅に上回った。これは、国内牛肉価格を抑制し消費を回復させるため、21年5月に同国政府が実施した

牛肉輸出規制による同年の輸出量減少の反動と考えられる。なお、この輸出規制措置はその後、徐々に緩和されたものの、一部品目の輸出禁止などの措置は依然継続されている（23年末まで延長）。

輸出先別に見ると、全体の79%を占める中国向けは49万632トン（同15.6%増）と前年をかなり大きく上回った。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による移動制限や景気の後退があるものの、低価格の経産牛由来の冷凍フルセットのほか、去勢牛・未經産牛由来の前四分体、経産牛由来のその他の牛肉を中心に冷蔵・冷凍で輸出された。また、中国向けの10分の1以下ながらもイスラエル向け（同2.3%増）、ドイツ向け（同9.4%増）も前年を上回った。一方、チリ向けは2万2974トン（同30.6%減）と前年を大幅に下回った。これは、同国向けには若齢の去勢牛や未經産牛由来の冷蔵フルセットの輸出が中心となるが、パラグアイをはじめとした近隣国との競合が強まったためとみられる。

表 牛肉輸出量および輸出額の推移

区分	2021年			22年			前年比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	424,379	1,681,826	3,963	490,632	2,265,242	4,617	15.6%	34.7%	16.5%
イスラエル	30,706	209,352	6,818	31,418	236,100	7,515	2.3%	12.8%	10.2%
ドイツ	21,915	229,954	10,493	23,973	257,712	10,750	9.4%	12.1%	2.5%
チリ	33,085	216,923	6,557	22,974	171,186	7,451	▲ 30.6%	▲ 21.1%	13.6%
米国	21,130	128,279	6,071	20,848	129,014	6,188	▲ 1.3%	0.6%	1.9%
オランダ	12,026	122,370	10,175	16,950	168,043	9,914	▲ 40.9%	37.3%	▲ 2.6%
ブラジル	7,584	61,350	8,089	6,160	66,970	10,872	▲ 18.8%	9.2%	34.4%
イタリア	3,992	42,596	10,670	4,008	45,163	11,268	0.4%	6.0%	5.6%
スペイン	1,058	11,059	10,452	1,239	13,276	10,715	17.1%	20.0%	2.5%
その他	3,942	28,849	7,318	3,986	38,108	9,560	1.1%	32.1%	30.6%
合計	559,817	2,732,559	4,881	622,188	3,390,812	5,450	11.1%	24.1%	11.7%

資料：アルゼンチン国家統計院
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

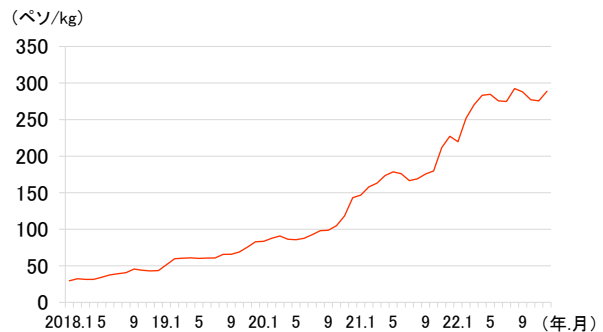
22年の肥育牛（去勢）出荷価格、前年に続き大幅に上昇

2022年の肥育牛（去勢）の出荷価格は、海外からの堅調な牛肉需要や急激なインフレの進行などにより前年に続き大幅に上昇した。同国の肉用牛相対取引の指標となっているリニエルス家畜市場の22年12月の取引価格は、1キログラム当たり288.69ペソ（202円：1ペソ=0.70円^{（注）}）と、前年同月比27.1%高となった（図2）。近年の状況を見ると、肥育牛（去勢）価格は上昇傾向で推移しており、21年5月には牛肉輸出規制により一時的に下落したものの、その後再び上昇

し、22年4月以降は同280ペソ（196円）前後の高値を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末Selling相場。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン農業省（PRINCIPALES INDICADORES DEL SECTOR BOVINO）

注：リニエルス家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

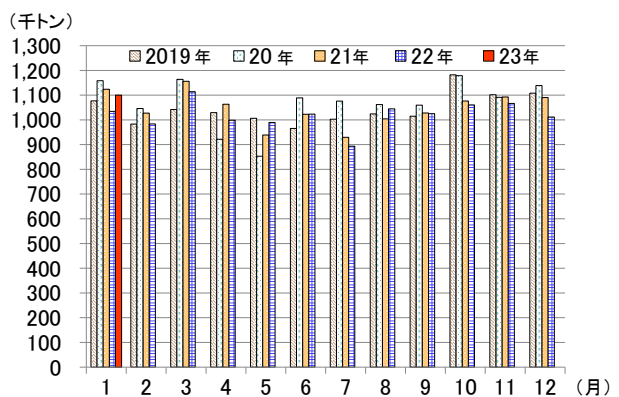
米 国

22年の豚肉輸出量、前年をかなりの程度下回る

23年1月の豚肉生産量、と畜頭数の増加から前年同月比6.4%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年1月の豚と畜頭数は1113万300頭（前年同月比6.9%増）とかなりの程度増加した。これは、昨年末に北米地域を襲った寒波の影響から一部の食肉処理加工施設が稼働停止となり、同時期のと畜・処理加工が滞ったことの影響などが要因とされる。また、23年1月の豚肉生産量は、と畜頭数が前年同月を上回ったことから110万100トン（同6.4%増）とかなりの程度増加した（図1）。

図1 豚肉生産量の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注：枝肉重量ベース。

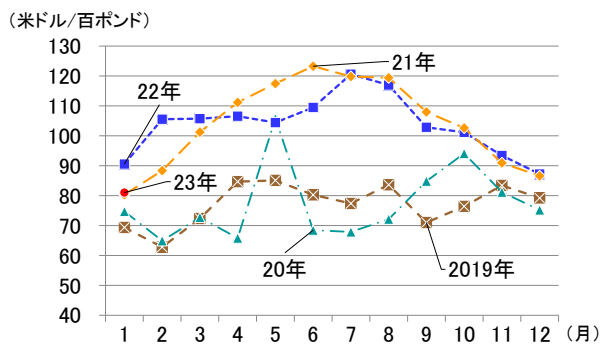
23年1月の豚肉卸売価格は前年同月比10.5%下落

2023年1月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）は、国内需要が停滞する中で豚肉供給量の増加などから、100ポンド当たり81.03米ドル（1キログラム当たり245円：1米ドル=137.33円^(注2)、前年同月比10.5%安）とかなりの程度下落した（図2）。部位別に見ると、ロインやもも（ハム）は前年を上回る価格で推移しているものの、ベリー（バラ肉）は在庫量の積み増しにより大きく下落し、これが全体を引き下げる要因となった。

（注1）カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図2 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注：カットアウトバリュー。

22年の豚肉輸出量、中国・香港向けが大幅に減少し前年比9.8%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年12月の豚肉輸出量は25万4600トン（前年同月比5.4%増）とやや増加したものの、22年累計では、287万4700トン（前年比9.8%減）と前年をかなりの程度下回った（表）。輸出先別に見ると、中国・香港向けが中国国内の豚肉生産回復により28万8800トン（同46.0%減）と前年から大幅に減少したことが影響している。他方で、輸出先第1位であるメキシコ向けは、旺盛な需要により106万300トン（同13.6%増）とかなり大きく増加し、好調を維持している。同国では食品価格高騰の影響を受け、牛肉から豚肉への需要が高まっており、23年の豚肉消費量は22年を上回ると予測されている。一方、日本向けは米ドル高で推移した為替相場の影響によりEUやカナダなど他国からの輸入が増えた結果、49万1200トン（同11.4%減）とかなり大きく減少した。23年の第1四半期（4～6月）の豚肉輸出についてUSDAは、国内生産が増加することから、今後はアジア向け輸出の競争力が強化されると見込んでいる。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
メキシコ	90.0	97.8	8.8%	38.4%	1,060.3	▲13.6%
日本	44.3	34.5	▲22.2%	13.5%	491.2	▲11.4%
中国・香港	19.0	28.9	52.2%	11.4%	288.8	▲46.0%
韓国	20.5	19.9	▲3.0%	7.8%	243.3	4.7%
カナダ	20.9	19.8	▲5.3%	7.8%	233.6	▲10.4%
コロンビア	12.5	9.5	▲24.5%	3.7%	131.0	▲5.0%
ドミニカ共和国	6.9	12.0	74.0%	4.7%	112.9	44.2%
その他	27.4	32.2	17.5%	12.7%	313.4	▲31.0%
合計	241.5	254.6	5.4%	100.0%	2,874.7	▲9.8%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

E U

豚飼養頭数の減少などにより豚枝肉価格が大幅上昇

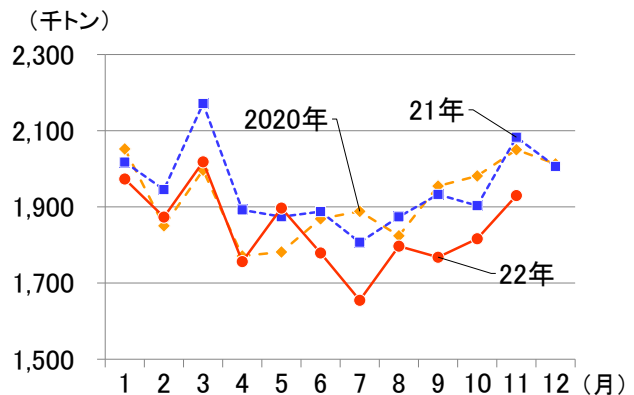
と畜頭数の減少に伴い生産量はかなり減少

欧州委員会によると、2022年11月の豚肉生産量（EU27カ国）は、192万9730トン（前年同月比7.4%減）とかなりの程度減少した（図1）。同月の1頭当たり枝肉重量は93.3キログラム（同0.1%減）と前年並みであったものの、と畜頭数が2069万頭（同7.3%減）とかなりの程度減少したことが影響した。

欧州委員会によると、豚肉生産量の減少の要因として、多くの生産者が飼料費や燃料費など生産コストの増加による厳しい経営状況に直面していることに加え、アニマルウェルフェアや環境規制、アフリカ豚熱などの不確定要素が挙げられている。

国別に見ると、第1位のスペイン（同

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会 [Eurostat]

注1：枝肉重量ベース。

注2：直近月は速報値。

3.6%減)、ドイツ (同7.5%減)、フランス (同1.6%減) の上位3カ国を始め、オランダ (同0.1%増) を除くすべての主要生産国で前年同月を下回った (表1)。

表1 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2021年 11月	22年 11月	前年同月比 (増減率)	22年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	490	473	▲ 3.6%	4,640	▲ 1.8%
ドイツ	421	389	▲ 7.5%	4,114	▲ 9.6%
フランス	180	177	▲ 1.6%	1,969	▲ 2.1%
ポーランド	176	155	▲ 12.2%	1,647	▲ 9.0%
オランダ	151	151	0.1%	1,564	▲ 0.4%
イタリア	169	139	▲ 17.9%	1,144	▲ 5.3%
デンマーク	114	96	▲ 16.0%	1,499	▲ 6.2%
その他	382	351	▲ 8.2%	3,686	▲ 5.8%
合計	2,083	1,930	▲ 7.4%	20,263	▲ 5.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

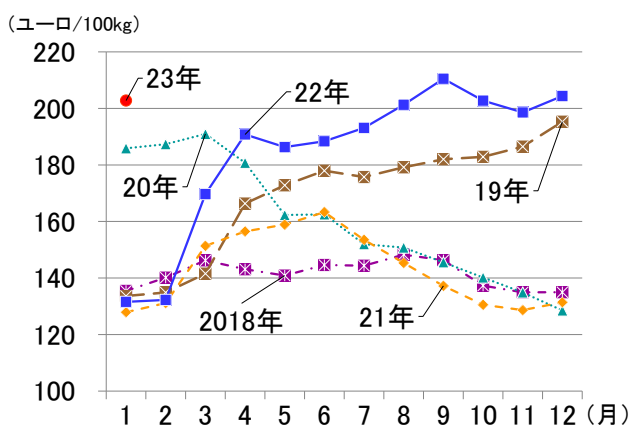
23年1月の枝肉価格、前年同月比54.1%高

欧州委員会によると、2023年1月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比54.1%高の100キログラム当たり202.78ユーロ（2万9628円：1ユーロ=146.11円^(注)）と大幅に上昇した（図2）。欧州委員会が公表した22年12月時点の豚総飼養頭数は、前年同月比5.2%減となり、すべての体重カテゴリーで減少していることから、今後も域内の需給はひっ迫傾向と見込まれる。

ただし、枝肉価格の上昇については国により状況が異なっており、ドイツ（同61.3%高）やポーランド（同60.8%高）は大きく上昇しているが、域外輸出の多いデンマークは、国際相場を反映して上昇幅が抑えられている（同37.1%高）。現地情報によると、22年秋以降のEUの豚肉価格は、米国、ブラジル、カナダなど競合する豚肉輸出国に比べて高い。このことが、デンマークなど輸出を主体とした国の価格が抑制される一因としている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU参考価格（CLASS E）。

中国向け輸出、大幅減も最大の輸出先を維持

欧州委員会によると、2022年12月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は21万3945トン（前年同月比16.3%減）、1～12月の年間輸出量は290万1862トン（前年比19.9%減）とともに大幅に減少した（表2）。年間輸出量について主要輸出先別に見ると、中国向けは前年比46.6%減と大幅に減少したものの、輸出先第1位を維持している。同国向けは同年前半に大きく減少したが、秋以

降の輸出量は回復してきている。一方、日本向け（前年比27.0%増）、韓国向け（同9.1%増）、豪州向け（同20.4%増）、フィリ

ピン向け（同30.1%増）は、いずれも増加している。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：トン）

	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
中国	75,237	96,570	28.4%	45.1%	920,252	▲ 46.6%
日本	30,101	30,433	1.1%	14.2%	379,335	27.0%
韓国	30,929	17,281	▲ 44.1%	8.1%	251,923	9.1%
英国	28,233	9,693	▲ 65.7%	4.5%	295,372	▲ 12.0%
豪州	14,711	7,063	▲ 52.0%	3.3%	120,375	20.4%
フィリピン	12,545	5,105	▲ 59.3%	2.4%	199,837	30.1%
その他	63,831	47,800	▲ 25.1%	22.3%	734,768	▲ 5.7%
合計	255,587	213,945	▲ 16.3%	100.0%	2,901,862	▲ 19.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 上村 照子）

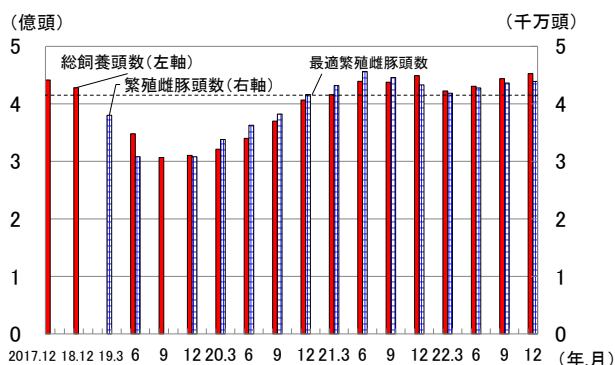
中国

11月中旬に下落に転じた豚肉価格、急速に値を下げる

繁殖雌豚頭数、22年5月以降は増頭傾向

中国農業農村部によると、2022年12月末時点の豚総飼養頭数は4億5256万頭（前年同月比0.7%増）となり、18年からのアフリカ豚熱発生の影響以降では最多を記録した（図1）。また、繁殖雌豚頭数も4390万頭（同1.4%増）となった。一方で、同部が最適な繁殖雌豚頭数としている4100万頭程度と比較すると、7.1%上回っている状況にある。

図1 豚飼養頭数の推移



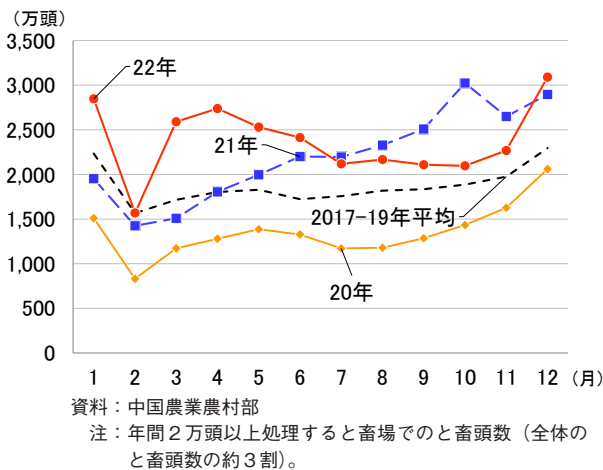
資料：中国国家统计局

注：四半期ごとの公表値。

22年の豚と畜頭数、年末の急増から前年を上回る

中国国内の豚と畜頭数は、2022年末に大きく伸びを見せ、同年の総と畜頭数(一定規模以上のと畜場)は2億8538万頭(前年比7.8%増)と前年をかなりの程度上回った(図2)。同年下半期は豚肉価格が高水準で推移したことで、大手生産者を中心に積極的な出荷促進が図られたが、11月中旬以降、豚肉価格が下落に転じたことで、中小規模の生産者を中心にさらなる価格の下落懸念から、出荷を加速する動きがあったとされている。

図2 豚と畜頭数の推移

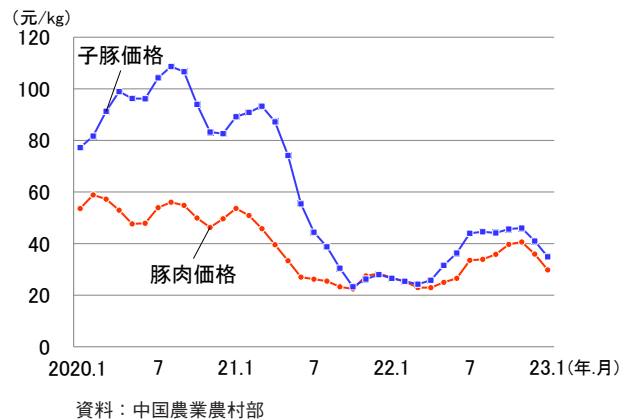


価格の下落から国家備蓄による買入れを実施

豚肉価格および子豚価格は、2022年11月からともに下落に転じている。23年1月の子豚価格は、前月比15%安の1キログラム当たり34.9元(694円:1元=19.88円^(注))となった。また豚肉価格も、同17.1%安の同29.8元(592円)となった(図3)。前述の通り価格下落を懸念した生産者が出荷を加

速させたことに加え、COVID-19による需要の低下も一因となった。1月下旬の春節時期には、COVID-19の感染も収束に向かったことで消費も回復し、豚肉価格の下落は一時的に鈍化した。しかし、春節後は需要が落ち着くため、例年の動きと同様、さらに値を下げている。

図3 豚肉および子豚価格の推移



現地報道によると、豚肉価格の下落を受けて国家発展改革委員会などは2月24日、国家備蓄による豚肉2万トンの買入れを実施した。また、同時に各地方政府に対しても豚肉買入れの実施を指示している。これらの措置などにより、3月上旬に入り豚肉価格は上昇に転じたとされている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

22年の豚肉輸入量は前年から大幅減

2022年の豚肉輸入量は、174万3540トン(前年比51.2%減)と大幅に減少した(表)。同年下半期には国内豚肉価格の高騰から輸入数量の増加が見られたものの、アフリカ豚熱の影響から回復途上にあった21年上半期ほどの勢いはなく、前年を大幅に下回った。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2018年	19年	20年	21年	22年	前年比
						(増減率)
スペイン	22.0	38.2	93.4	109.8	46.9	▲ 57.3%
ブラジル	15.0	22.2	48.1	54.6	41.7	▲ 23.7%
デンマーク	7.2	16.4	36.0	35.2	19.4	▲ 44.8%
米国	8.6	24.5	69.6	39.8	12.6	▲ 68.3%
オランダ	8.5	16.0	26.5	27.7	12.3	▲ 55.6%
カナダ	16.0	17.2	41.1	23.6	11.4	▲ 51.7%
その他	42.0	64.9	115.8	66.8	30.1	▲ 55.0%
合計	119.3	199.4	430.4	357.4	174.4	▲ 51.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

鶏 肉

米 国

23年1月の鶏肉生産量は増加傾向

23年1月の鶏肉生産量、前年比7.4%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年1月の鶏肉生産量は処理羽数、生体重量の増加により179万8000トン（前年同月比7.4%増）とかなりの程度増加し、6カ月連続で前年同月を上回った（表1）。また、22年1～12月の鶏肉生産量は、年後半の増産傾向もあって2095万9000トン（同

2.9%増）とわずかに増加した。一方、USDAは孵化場における肉用鶏卵の導入数が減少しているとして、23年の鶏肉生産量予測を前月発表から9万1000トン引き下げ、前年比1.1%増と予測している。

卸売価格は高値で推移

USDA/ERSによると、2023年1月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.22米ドル（1キログラム当たり368.88円：1米ドル

表1 鶏肉生産量の推移

	2021年 (1～12月)		23年 1月	22年 (1～12月)		
	前年比 (増減率)	前年同月比 (増減率)		前年比 (増減率)		
生産量（千トン）	20,366	0.7%	1,798	7.4%	20,959	2.9%
処理羽数（百万羽）	9,211	▲0.2%	802	6.1%	9,430	2.4%
生体重量（キログラム/羽）	2.93	0.8%	2.97	1.2%	2.94	0.4%

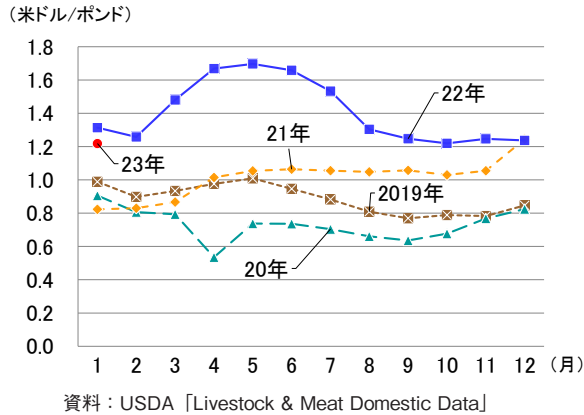
資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：連邦食肉検査済みのもの。
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

=137.33円^(注)、前年同月比7.3%安)と、前年同月をかなりの程度下回った(図1)。

ただし、19~21年の各同月よりは依然として高い水準にある。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図1 鶏肉の卸売価格の推移



一方、23年1月末の鶏肉冷凍在庫量は37万4228トン(同12.3%増)と、前年同月をかなり大きく上回った(図2)。インフレにより食品価格が上昇する中、比較的安価な食肉である鶏肉の消費量は増加傾向にあるが、生産量がこれを上回ることによって12カ月連続での在庫増となった。USDAはこうした生産・消費動向を踏まえ、23年の価格を前年比10.0%安の1ポンド当たり1.27米ドル(1キログラム当たり382.99円)と予測している。

22年の鶏肉輸出量、前年比でわずかに減

USDA/ERSによると、2022年12月の鶏肉輸出量は27万1331トン(前年同月比4.6%減)と前年同月をやや下回った(表2)。輸出先別に見ると、第1位のメキシコ向けはかなりの程度増加したものの、キューバおよび中国向けが大幅に減少し、輸出量全体を押し下げた。また、同年1~12月の輸出量は、メキシコ、キューバ、中国向けなどの輸出の減少により、330万1174トン(前年比1.1%減)と前年をわずかに下回った。23年の輸出量についてUSDAは、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)による輸出制限のリスクなどを見込み、前年をわずかに上回る(同0.5%増)程度と予測している。

図2 鶏肉冷凍在庫量の推移

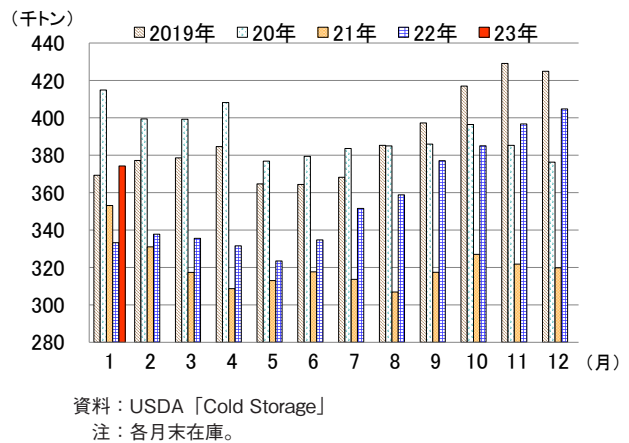


表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
メキシコ	56,190	61,007	8.6%	22.5%	663,683	▲7.6%
キューバ	33,450	26,320	▲21.3%	9.7%	272,664	▲12.4%
台湾	15,661	17,849	14.0%	6.6%	236,568	46.0%
カナダ	10,827	10,572	▲2.4%	3.9%	151,384	5.1%
アンゴラ	16,583	16,753	1.0%	6.2%	178,267	26.1%
フィリピン	8,289	10,445	26.0%	3.8%	188,827	23.0%
ジョージア	2,173	10,281	373.1% (約4.7倍)	3.8%	79,683	67.0%
中国	15,014	10,013	▲33.3%	3.7%	138,561	▲19.5%
その他	126,324	108,091	▲14.4%	39.8%	1,391,539	▲6.3%
合計	284,511	271,331	▲4.6%	100.0%	3,301,174	▲1.1%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 小林 大祐)

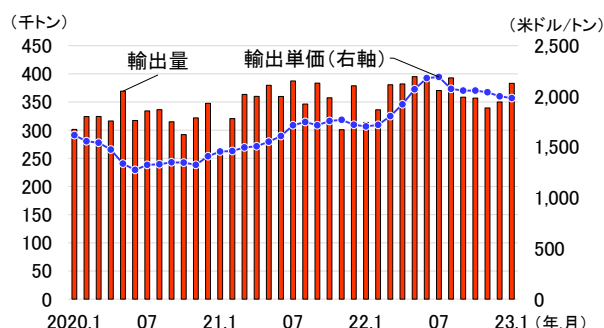
ブラジル

22年の鶏肉輸出量は2年連続で増加

22年の鶏肉輸出単価、輸出額ともに大幅に上昇

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2022年の鶏肉輸出量は436万6861トン（前年比3.9%増）と前年をやや上回り2年連続で増加した（表）。これは、米ドルに対するレアル安で推移した為替相場のほか、アジア、EUおよび北米などで発生したHPAIやウクライナ情勢などが、鶏肉の需要増につながったためとみられる。また、これらの需要に加えて、飼料やひななどの生産コストの上昇を反映し、輸出単価（同22.2%高）、輸出額（同26.9%増）とともに前年を大幅に上回った（図1）。

図1 鶏肉輸出量および輸出単価の推移



資料：SECEX

注1：HSコード0207.11～14の合計。

注2：製品重量ベース。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは53万9682トン（同15.6%減）と前年をかなり大きく下回った。これは、同国の輸入業者が鶏肉の取引価格の上昇およびCOVID-19の規制に伴う保管冷蔵庫の一時的な閉鎖という状況下で、資金繰り問題が生じたことなどが要因とされる。一方、アラブ首長国連邦（UAE）向けは44万2955トン（同13.9%増）

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2021年			22年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	639,246	1,272,565	1,991	539,682	1,343,376	2,489	▲15.6%	5.6%	25.0%
アラブ首長国連邦	388,866	690,210	1,775	442,955	947,429	2,139	13.9%	37.3%	20.5%
日本	438,341	831,340	1,897	410,609	943,892	2,299	▲6.3%	13.5%	21.2%
サウジアラビア	353,511	648,034	1,833	340,128	843,701	2,481	▲3.8%	30.2%	35.3%
南アフリカ共和国	296,067	207,391	700	283,353	187,008	660	▲4.3%	▲9.8%	▲5.8%
フィリピン	168,001	152,497	908	244,911	284,523	1,162	45.8%	86.6%	28.0%
韓国	113,749	204,153	1,795	185,377	407,202	2,197	63.0%	99.5%	22.4%
シンガポール	101,410	197,974	1,952	150,652	350,179	2,324	48.6%	76.9%	19.1%
その他	1,704,409	2,645,472	1,552	1,769,194	3,385,820	1,914	3.8%	28.0%	23.3%
合計	4,203,600	6,849,637	1,629	4,366,861	8,693,131	1,991	3.9%	26.9%	22.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

とかなり大きく増加し、日本を抜いて中国に次ぐ輸出先となった。UAE向けは、同国内の鶏肉生産量が輸入飼料費などの生産コストの上昇や同国政府による鶏肉の価格統制により減少している中で、経済成長や人口の増加による国内需要の増加や再輸出先である近隣諸国からの需要の増加が要因とされている。また、日本向けは41万609トン（同6.3%減）と前年をかなりの程度下回った。このほか、サウジアラビア向けや南アフリカ共和国向けが減少する一方で、フィリピン、韓国、シンガポールといったアジア向けが大幅に増加した。

22年の鶏肉卸売価格は高水準で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2022年のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州、名目価格）は、1月に1キログラム当たり5.81リアル（153円：1リアル=26.37円^(注)）の安値となった後、上昇に転じた（図2）。これは、ウクライナ情勢や米国でHPAIが発生し同国からの鶏肉輸出量が減少し、国際的に鶏肉の需給がひっ迫したことに加え、不安定な飼料供給に起因する生産コストの上昇などを反映したものとみられる。この結果、鶏肉卸売価格は、4月

図2 サンパウロ州の鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の推移



資料：CEPEA

に同8リアル（211円）に達し、11月半ばまで同8リアル前後の高水準で推移した。その後は需要の減退により価格が下落し、直近の価格は同6.97リアル（184円、23年2月17日現在）となっている。

近年の状況を見ると、堅調な需要を背景に20年6月ごろから上昇傾向で推移し、21年9月中旬には統計が公表された04年以降で最高値となる同8.57リアル（226円）を記録した。その後は高値を回避する動きから需要が減退し、21年10～12月にかけて価格は下落傾向で推移した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末Selling相場。

周辺諸国でHPAIが発生

南米では、2022年末ごろから水鳥などの

野鳥を中心にHPAIの発生が確認されている。23年1月までには、コロンビア、ベネズエラ、ペルー、チリで発生が確認されており、2月には、ポリビア、ウルグアイで野鳥、アルゼンチンの複数の地域で野鳥や庭先の家きんで感染が確認された。さらに、3月1日にはアルゼンチンリオネグロ州のブロイラー生産農家で初めてHPAIの発生が確認され、同国は家きん肉などの一時輸出停止措置を講じた。現地報道によると、これらは渡り鳥を介して感染が拡大しているとみられる。このため、ブラジルでは渡り鳥の飛来地などでの監視を強化している。特にウルグアイでの感染は、ブラジルの鶏肉主産地である南部地域の国境に近いことから警戒感を強めている。

（調査情報部 井田 俊二）

中国

22年の家きん肉生産量は増加、価格は22年末以降下落

22年の家きん肉生産量は前年比増、原種鶏の輸入減の影響は残る見込み

中国国家统计局によると、2022年の家きん総出荷羽数は161億4000万羽（前年比2.5%増）、生産量は2443万トン（同2.6%増）となり、おおむね安定的な生産が継続している。一方で、今後の鶏肉生産に関して現地報道によると、世界的なHPAI発生の影響から原種鶏の輸入羽数が縮小していることで、国内の原種鶏の供用期間が長期化しているため、原種鶏全体の産卵率の低下により種鶏の供給量が低下しているとされる。

直近の米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の見通しによると、22年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は前年比2.7%減の1430万トンとされ、23年も同程度の生産量が見込まれている（表1）。また、昨今のHPAIの発生により原種鶏の供給に支障が出ていることで、23年の鶏肉生産にも影響を及ぼすとみられている。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については、『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html）図2を参照されたい。

表1 鶏肉需給の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年 (予測)
生産量	1,460	1,470	1,430	1,430
輸入量	100	79	63	63
輸出量	39	46	53	56
国内消費量	1,521	1,503	1,440	1,438

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS）

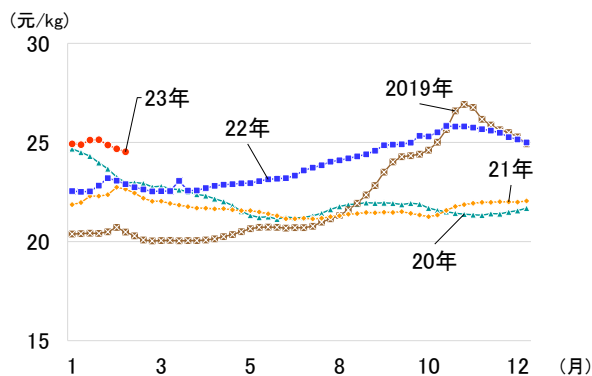
注：調理用換算（Ready to Cook Equivalent）、もみじ（鶏足）は含まない。

鶏肉価格は22年末から下落傾向

中国農業農村部によると、2023年2月第3週の鶏肉市場価格は、1キログラム当たり24.5元（487円：1元=19.88円^(注2)、前年同期比7.1%高）となった（図）。豚肉価格が高騰していた22年下半年は、代替需要などから鶏肉も同様に高値で推移していたものの、豚肉価格の下落に合わせて22年末から23年にかけて下落傾向にある。現地関係者によると、22年上半年は飼料価格の高騰などから生産環境は厳しい状況とされたが、下半期の価格の上昇を受けて多少改善したとされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部

22年の鶏肉輸入量は大きく減少

2022年の冷凍鶏肉輸入量は、129万1724トン（前年比11.3%減）とかなり大きく減少した（表2）。この要因として、アフリカ豚熱からの回復途上にあつた21年前半ほどの輸入需要がない中で、世界各地でのCOVID-19の再拡大や、輸入貨物の検疫強化、欧米など鶏肉生産地域でのHPAI発生などが影響したとされている。輸入先別に見ると、主要国が総じて減少している中で、ロシアは同7.0%増とかなりの程度増加した。

22年の鶏肉調製品輸出量は大きく増加

2022年の鶏肉調製品の輸出量は、30万5376トン（前年比13.2%増）と前年をかなり大きく上回った（表3）。世界的な経済活動の再開が進む中、HPAIの発生により鶏肉需給がひっ迫傾向となっている地域もあるとされ、中国企業の中には海外市場を開拓しようとする動きもあるという。

USDAによると、23年も引き続き、日本と香港向けが中国の主要な鶏肉調製品の輸出先となるとみられている。

表2 輸入先別輸入量の推移（冷凍鶏肉）

(単位：万トン)

	2018年	19年	20年	21年	22年	前年比 (増減率)
ブラジル	42.1	53.7	68.6	65.1	55.3	▲ 15.0%
米国	—	—	40.9	44.0	34.3	▲ 22.1%
ロシア	—	3.4	14.5	11.9	12.7	7.0%
タイ	1.7	7.1	11.7	10.4	8.5	▲ 18.6%
アルゼンチン	4.6	7.7	8.7	7.5	6.8	▲ 8.7%
その他	1.7	5.4	7.1	6.9	11.6	69.5%
合計	50.1	77.4	151.4	145.7	129.2	▲ 11.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

表3 輸出先別輸出量の推移（鶏肉調製品）

(単位：万トン)

	2018年	19年	20年	21年	22年	前年比 (増減率)
日本	21.0	19.3	16.1	18.0	19.3	7.2%
香港	2.6	2.9	3.0	3.7	3.8	1.9%
英国	0.7	0.9	0.6	0.8	1.8	120.8%
オランダ	1.1	1.3	1.0	1.4	1.8	28.5%
フィリピン	0.0	0.0	0.4	1.0	1.1	8.7%
その他	1.5	1.8	1.6	2.0	2.6	34.3%
合計	26.9	26.1	22.7	27.0	30.5	13.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

EU

22年の生乳出荷量は前年並み、飼養頭数は前年割れ

22年12月の生乳出荷量、前年同月比0.9%増

欧州委員会によると、2022年12月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1147万90トン（前年同月比0.9%増）となった（表1）。22年上半期の生乳出荷量は、熱波や干ばつの影響により前年同期比で減少した一方、下半期は穏やかな天候が続き豊富で良質な牧草に恵

まれ、また、過去最高水準の生乳価格にけん引される形で生乳出荷量が前年同期比で増加した（図1）。結果として22年の生乳出荷量は、前年比0.1%減の前年並みとなった。しかし、業界団体によると、飼料穀物価格の上昇による配合飼料使用量の減少や上半期の熱波の影響により、乳脂肪分とタンパク質含有量は前年を下回ったとされている。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	22年 (1～12月)	
				前年比 (増減率)	前年比 (増減率)
ドイツ	2,583	2,662	3.1%	31,947	0.0%
フランス	2,000	1,974	▲ 1.3%	23,999	▲ 0.8%
オランダ	1,122	1,168	4.1%	13,761	1.2%
ポーランド	1,032	1,049	1.7%	12,779	2.1%
イタリア	1,085	1,045	▲ 3.6%	12,808	▲ 1.8%
スペイン	616	606	▲ 1.7%	7,314	▲ 2.1%
デンマーク	465	468	0.6%	5,664	0.4%
ベルギー	361	378	4.6%	4,495	2.6%
アイルランド	266	286	7.4%	9,082	0.7%
その他	1,839	1,835	▲ 0.2%	22,474	▲ 0.5%
合計	11,369	11,470	0.9%	144,324	▲ 0.1%

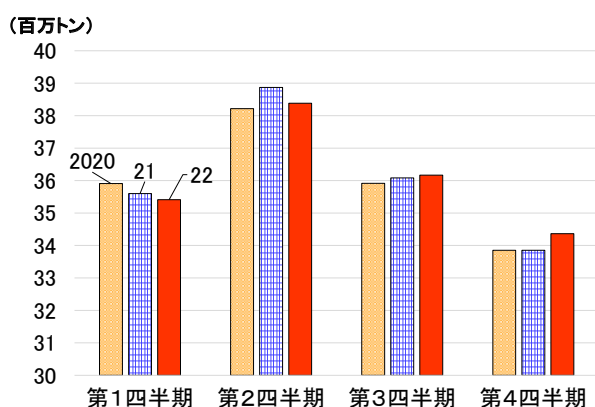
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

注3：22年11、12月はマルタも除く（N/A値のため）。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

生乳取引価格、依然として高水準で推移

欧州委員会によると、2023年1月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり56.97ユーロ（8324円:1ユーロ=146.11円^注、前年同月比36.3%高）と依然として前年同月を大幅に上回って推移し

ている。一方、前月比では0.8%安となり、2カ月連続で前月をわずかに下回った。業界団体によると、飼料などの高騰する資材価格に下落の兆しもあるため、この生乳取引価格の下落は当面の間、生乳出荷量に大きな影響を及ぼすことはないとしている。

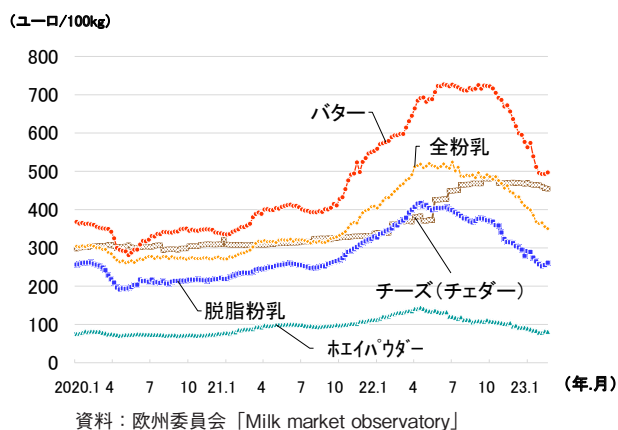
(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

乳製品価格は下落する中、バターと脱脂粉乳は反転の兆し

欧州委員会によると、直近の2023年2月19日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり497ユーロ（7万2617円、前年同期比16.4%安）、脱脂粉乳が同261ユーロ（3万8135円、同27.1%安）と前年同期を大幅に下回っている（図2）。しかしながら、バターおよび脱脂粉乳を前週の価格と比較すると、それぞれ0.8%高、2.5%高となった。業界団体によると、消費者物価がやや緩和に向かい小売バターの需要や、脱脂粉乳の輸出需要が出てき

たことから、価格が上昇に転じたとみており、今後の動向が注目されている。

図2 乳製品価格の推移



乳用経産牛飼養頭数、7年連続で減少

欧州委員会によると、2022年12月時点の乳用経産牛飼養頭数（EU27カ国）は、2008万7860頭（前年比0.6%減）と7年連続で前年を下回った（表2）。2大酪農国のドイツ（同0.6%減）およびフランス（同2.7%減）も飼養頭数を減少させており、両国とも8年連続の減少となった。ただし、ドイツの減少率は21年12月時点の同2.3%減に比べ小さくなった。一方、この他の主要生産国では、ポーランド、オランダ、アイルランドが飼養頭数を増やすとともに生乳出荷量も増やしている。しかし、厳しい環境規制のあるオランダではさらなる増頭・増産は難しいと考えられる。

表2 主要生産国別乳用経産牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2020年	21年	22年	前年比 (増減率)
ドイツ	3,921	3,833	3,810	▲ 0.6%
フランス	3,406	3,322	3,231	▲ 2.7%
ポーランド	2,126	2,035	2,037	0.1%
イタリア	1,871	1,844	1,865	1.1%
オランダ	1,569	1,554	1,570	1.0%
アイルランド	1,456	1,505	1,510	0.3%
ルーマニア	1,122	1,082	1,081	▲ 0.1%
スペイン	811	809	810	0.2%
デンマーク	565	559	556	▲ 0.5%
その他	3,675	3,669	3,618	▲ 1.4%
合計	20,522	20,213	20,088	▲ 0.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2022年は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

生乳生産量、30年ぶりの800万キロリットル台割れの懸念

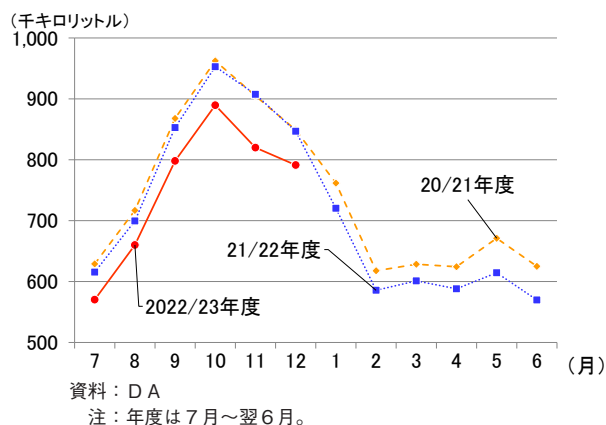
生乳生産量、前年割れ続く

デーリー・オーストラリア (DA) によると、2022年12月の生乳生産量は79万1350キロリットル (81万5091トン相当、前年同月比6.5%減)、同月までの年度累計生乳生産量 (22年7～12月) は452万9144キロリットル (466万5019トン相当、前年同期比7.1%減) となった (図1)。単月の生産量が前年同月を下回るのは、21年12月以降13カ月連続となる。

これは、ラニーニャ現象に伴う長雨や22年10月に豪州東部を襲った洪水により、(1) 豪州の主要酪農地帯であるビクトリア州などの牧場や牧草地が被害を受けたこと (2) 穀物の質が低下し高品質な飼料入手のためのコスト負担の増加から給餌量を制限する酪農家が出ていること一などが要因とみられる。

現地報道によると、このような状況を受けて22/23年度の生乳生産量は800万キロリットル (824万トン相当) を下回るとの予測も出ている。仮にこれが現実のものとなっ

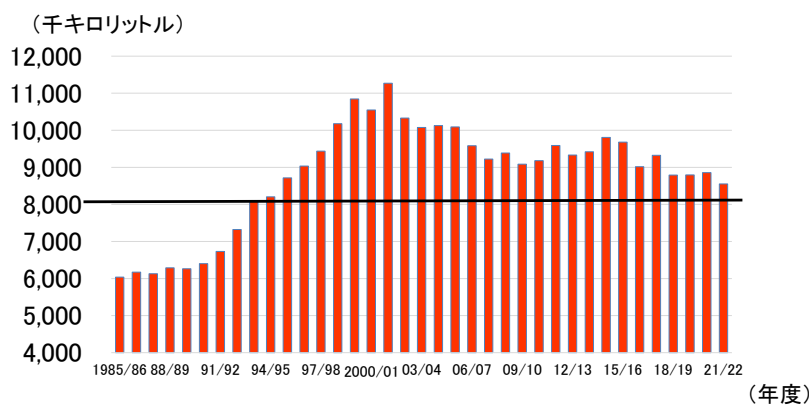
図1 生乳生産量の推移



た場合、1992/93年度以来、30年ぶりの大台割れとなる (図2)。

生乳生産量が減少する中で、乳量の確保に向けて乳業各社は、年度当初から記録的な高値をつけていた今年度の生産者支払乳価 (注1) をさらに引き上げる動きが出始めている。ニュージーランド最大手乳業フォンテラ社の豪州法人である豪州フォンテラ社は2月、生乳の固形分 (注2) 1キログラム当たり15豪セント (14円：1豪ドル=93.90円 (注3)) 引き上げ、同9.55豪ドル (897円) にすることを発表し

図2 生乳生産量の推移



た。このほか、ビクトリア州の乳業ユニオン・デーリー・カンパニーや豪州小売大手のコールスなども乳価引き上げを発表している。

(注1) 詳細は、海外情報「2022/23年度の当初乳価は記録的な高値(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003273.html)を参照されたい。

(注2) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

主要乳製品輸出量、全品目で大幅減

DAが発表した2022年12月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で大幅に減少した(表、図3)。

品目別に見ると、最も減少率が大きかったバターおよびバターオイルが1060トン(前

年同月比47.9%減)と半減したことを筆頭に、全粉乳が4828トン(同29.8%減)、脱脂粉乳が1万4862トン(同24.4%減)、チーズが1万3191トン(同18.2%減)となった。これらの減少は、いずれも中国をはじめとしたアジア向け輸出の不振が要因となっている。

今後の動向について現地報道によると、中国のゼロコロナ政策の撤廃を受け、主に外食やベーカリーでの利用が多いバターやチーズを中心に乳製品の国際需要が回復するとした意見もある一方で、昨今の乳製品需要が弱含みである一因にインフレが挙げられることから、短期的な回復は困難とする意見もある。

表 乳製品輸出量の推移

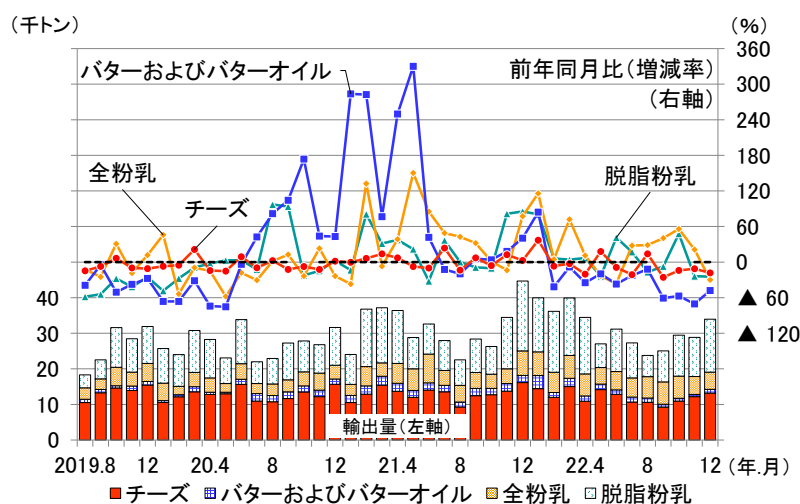
(単位：トン)

品目	2021年 12月	22年 12月	前年同月比 (増減率)	22/23年度 (7~12月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	19,659	14,862	▲ 24.4 %	61,857	▲ 7.5 %
全粉乳	6,876	4,828	▲ 29.8 %	33,768	▲ 19.0 %
バターおよびバターオイル	2,035	1,060	▲ 47.9 %	5,856	▲ 47.5 %
チーズ	16,133	13,191	▲ 18.2 %	66,902	▲ 14.2 %

資料：DA

注：製品重量ベース。

図3 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

GDT価格、バターおよびチーズが続伸

23年1月の生乳生産量、減少傾向に歯止め

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年1月の生乳生産量は235万2000トン（前年同月比1.2%増）と21年7月以来18カ月ぶりに前年同月を上回った（図1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、温暖で湿潤な天候が続いたことで、牧草の生育状況は良好としている。

一方で、2月中旬には大型サイクロン「ガブリエル」が同国を直撃し、北島の一部地域では停電や洪水が発生するなどの被害に見舞われた。NZXはこのサイクロンによる生乳生産への影響は限定的であるとしているものの、飼料用トウモロコシへの被害が懸念されるとしている。

乳製品輸出量、主要4品目が前年同月を上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年1月の乳製品輸出量は、主要4品目すべてで前年同月を上回った（表、

図1 生乳生産量の推移

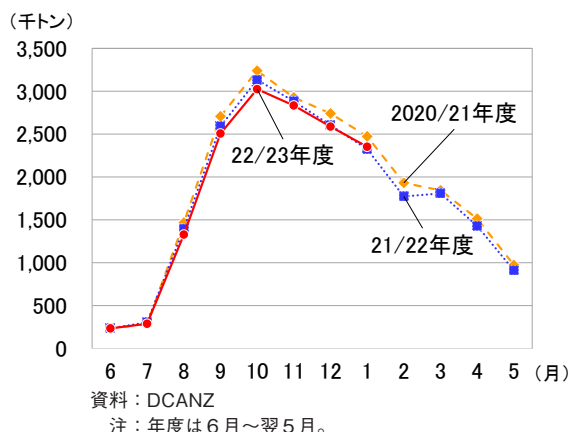


図2)。品目別に見ると、脱脂粉乳は最大の輸出先である中国向けが前年同月比で2.5倍程度増加したことで全体でも大幅に増加した。全粉乳は最大の輸出先である中国向けが前年同月を下回ったものの、主要輸出先のインドネシアやマレーシア向けが大幅に増加したことで全体ではかなりの程度増加した。また、バターおよびバターオイルは豪州、韓国、日本向けがそれぞれ同2倍程度増加したことで全体でも大幅に増加した。チーズは、最大の輸出先である中国をはじめ、主要輸出先の日本、韓国向けがそれぞれ増加したことで全体でもかなり大きく増加した。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2022年 1月	23年 1月	前年同月比 (増減率)	22/23年度 (7月～翌1月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	30,196	51,303	69.9%	247,319	34.4%
全粉乳	117,640	125,966	7.1%	831,581	▲2.4%
バターおよびバターオイル	37,377	43,461	16.3%	283,751	35.0%
チーズ	32,024	36,625	14.4%	232,319	21.2%

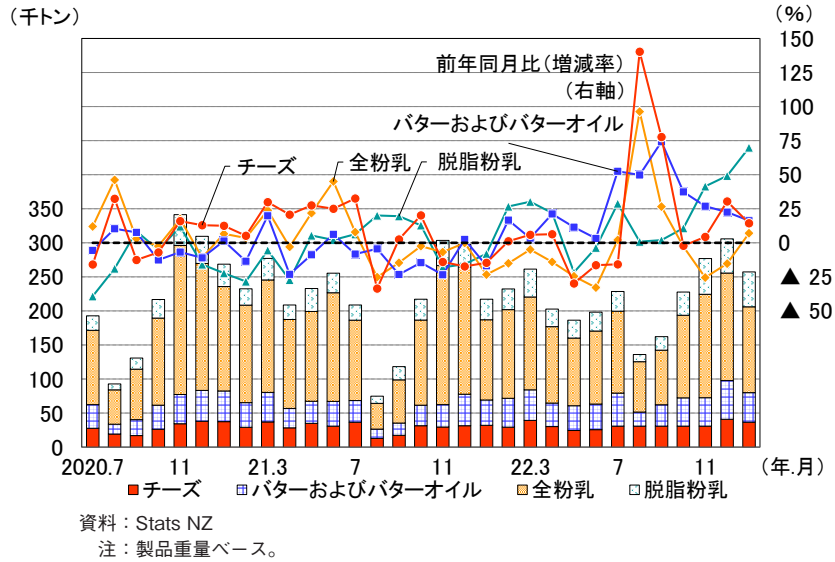
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



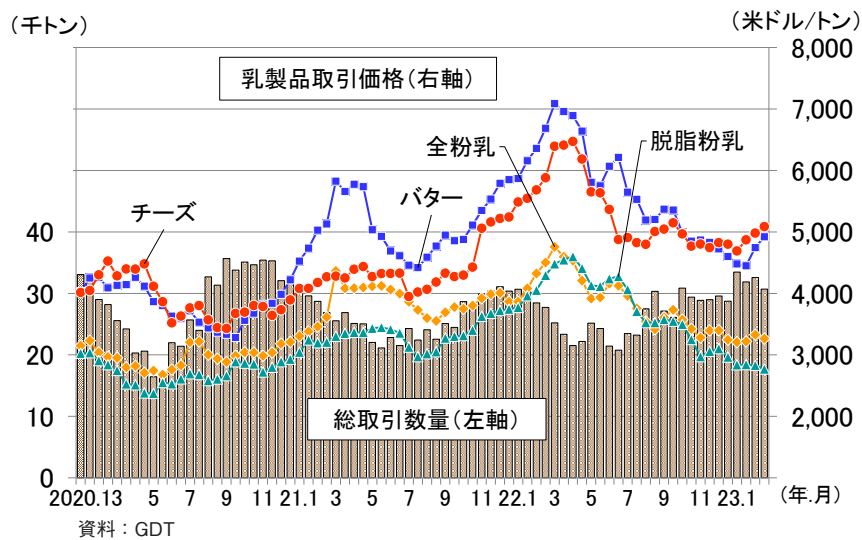
GDT価格、バターとチーズが堅調に推移

2023年2月21日に開催されたGDT^(注)の1トン当たりの平均取引価格は、粉乳が前回開催（2月7日）を下回り、依然として下落傾向にあるものの、バターおよびチーズは堅調に推移した（図3）。特にバターは、今年の初開催時（1月3日）から9.9%上昇、チー

ズも8.4%上昇した。この理由について市場アナリストらは、中国でCOVID-19の関連規制が緩和されたことで、飲食店やベーカリーを中心にバターやチーズの需要が回復傾向にあるためとし、粉乳などその他の乳製品についても価格回復の波が押し寄せるであろうと推測している。

(注) グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 工藤 理帆)

飼料穀物

世界

ブラジルが米国を抜いて最大の輸出国、期末在庫は前月に続き3億トンを下回る

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年2月8日、22/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億5136万トン（前年度比5.3%減）と前月から457万トン下方修正され、前年度をやや下回ると見込まれている。地域別に見ると、フィリピンやベトナムなどが増産により上方修正されたものの、主産地のアルゼンチンは、12月から1月中旬にかけて猛暑と干ばつが続いたことで減産が見込まれ、前月から500万トン下方修正されている。

輸入量は、世界全体で1億7700万トン（同4.1%減）と前月から155万トン上方修正されたものの、前年度からやや減少すると予測されている。地域別に見ると、ベトナムやインドネシア、マレーシアなどが前月から下方修正されたものの、EUは前月から上方修正された。

消費量は、世界全体で11億6237万トン

（同3.3%減）と前月から310万トン下方修正され、前年度からやや減少すると見込まれている。地域別に見ると、最大の消費国である中国は前月から据え置かれ、EUが前月から上方修正されたものの、ブラジル、アルゼンチンなどが前月から下方修正された。

輸出量は、世界全体で1億8107万トン（同11.6%減）と前月から290万トン上方修正されたものの、前年度からかなり大きく減少すると予測されている。地域別に見ると、減産の影響を受けたアルゼンチンは前月から下方修正されたものの、EU向けの増加が見込まれるブラジルやウクライナなどが前月から上方修正された。特にブラジルは、アルゼンチンの減産や米国の出荷低迷を受け、世界最大の輸出国である米国を上回る5000万トン（同4.2%増）と増加が見込まれている。

この結果、期末在庫は2億9528万トン（同3.6%減）と前月から114万トン下方修正され、前月に引き続き3億トンを下回ると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2023年2月8日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2020/21年度	22/23年度				
		21/22年度 (推計値)	(1月予測)	(2月予測)	前年度比 (増減量)	前年度比 (増減率)
米国						
期首在庫	48.76	31.36	34.98	34.98	3.62	11.5%
生産量	358.45	382.89	348.75	348.75	▲ 34.14	▲ 8.9%
輸入量	0.62	0.62	1.27	1.27	0.65	2.0倍
消費量	306.69	317.12	304.56	303.93	▲ 13.19	▲ 4.2%
輸出量	69.78	62.78	48.90	48.90	▲ 13.88	▲ 22.1%
期末在庫	31.36	34.98	31.54	32.17	▲ 2.81	▲ 8.0%
アルゼンチン						
期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	0.31	26.3%
生産量	52.00	49.50	52.00	47.00	▲ 2.50	▲ 5.1%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.0%
消費量	13.50	15.20	14.00	12.00	▲ 3.20	▲ 21.1%
輸出量	40.94	34.00	38.00	35.00	1.00	2.9%
期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.00	0.0%
ブラジル						
期首在庫	5.33	4.15	3.95	4.25	0.10	2.4%
生産量	87.00	116.00	125.00	125.00	9.00	7.8%
輸入量	2.85	2.60	1.30	1.30	▲ 1.30	▲ 50.0%
消費量	70.00	70.50	76.00	73.00	2.50	3.5%
輸出量	21.02	48.00	47.00	50.00	2.00	4.2%
期末在庫	4.15	4.25	7.25	7.55	3.30	77.6%
ウクライナ						
期首在庫	1.48	0.83	5.09	5.09	4.26	6.1倍
生産量	30.30	42.13	27.00	27.00	▲ 15.13	▲ 35.9%
輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	▲ 0.02	-
消費量	7.10	10.90	6.20	6.20	▲ 4.70	▲ 43.1%
輸出量	23.86	26.98	20.50	22.50	▲ 4.48	▲ 16.6%
期末在庫	0.83	5.09	5.39	3.39	▲ 1.70	▲ 33.4%
EU						
期首在庫	7.38	7.88	9.94	9.94	2.06	26.1%
生産量	67.44	70.98	54.20	54.20	▲ 16.78	▲ 23.6%
輸入量	14.49	19.78	21.50	23.50	3.72	18.8%
消費量	77.70	82.70	76.10	78.10	▲ 4.60	▲ 5.6%
輸出量	3.74	6.00	2.20	2.20	▲ 3.80	▲ 63.3%
期末在庫	7.88	9.94	7.34	7.34	▲ 2.60	▲ 26.2%
中国						
期首在庫	200.53	205.70	209.14	209.14	3.44	1.7%
生産量	260.67	272.55	277.20	277.20	4.65	1.7%
輸入量	29.51	21.88	18.00	18.00	▲ 3.88	▲ 17.7%
消費量	285.00	291.00	297.00	297.00	6.00	2.1%
輸出量	0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	-
期末在庫	205.70	209.14	207.32	207.32	▲ 1.82	▲ 0.9%
世界計						
期首在庫	307.41	292.84	305.95	306.28	13.44	4.6%
生産量	1,129.50	1,216.00	1,155.93	1,151.36	▲ 64.64	▲ 5.3%
輸入量	184.94	184.50	175.45	177.00	▲ 7.50	▲ 4.1%
消費量	1,144.08	1,202.55	1,165.47	1,162.37	▲ 40.18	▲ 3.3%
輸出量	182.70	204.73	178.17	181.07	▲ 23.66	▲ 11.6%
期末在庫	292.84	306.28	296.42	295.28	▲ 11.00	▲ 3.6%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/ アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 峯岸 啓之)

ブラジルなどの増産で、 世界の大豆期末在庫は1億トン台を維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年2月8日、22/23年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は3億8301万トン（前年度比7.0%増）と前月から500万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに次ぐ米国はいず

表 主要国の大豆需給見通し（2023年2月8日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	21/22年度	22/23年度		前年度比 (増減率)
		(推計値)	(1月予測)	(2月予測)	
米国					
期首在庫	14.28	6.99	7.47	7.47	6.9%
生産量	114.75	121.53	116.38	116.38	▲ 4.2%
輸入量	0.54	0.43	0.41	0.41	▲ 4.7%
消費量	58.26	59.98	61.10	60.69	1.2%
輸出量	61.67	58.72	54.16	54.16	▲ 7.8%
期末在庫	6.99	7.47	5.72	6.13	▲ 17.9%
ブラジル					
期首在庫	20.42	29.40	26.81	26.82	▲ 8.8%
生産量	139.50	129.50	153.00	153.00	18.1%
輸入量	1.02	0.54	0.75	0.75	38.9%
消費量	46.68	50.25	52.50	52.75	5.0%
輸出量	81.65	79.12	91.00	92.00	16.3%
期末在庫	29.40	26.82	33.46	32.22	20.1%
アルゼンチン					
期首在庫	26.65	25.06	23.90	23.90	▲ 4.6%
生産量	46.20	43.90	45.50	41.00	▲ 6.6%
輸入量	4.82	3.84	5.00	6.25	62.8%
消費量	40.16	38.83	38.00	37.30	▲ 3.9%
輸出量	5.20	2.86	5.70	4.20	46.9%
期末在庫	25.06	23.90	23.45	22.40	▲ 6.3%
中国					
期首在庫	24.61	31.15	31.40	31.40	0.8%
生産量	19.60	16.40	20.33	20.33	24.0%
輸入量	99.74	91.57	96.00	96.00	4.8%
消費量	93.00	87.50	95.00	94.00	7.4%
輸出量	0.07	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	31.15	31.40	31.33	32.33	3.0%
世界計					
期首在庫	94.55	99.75	98.22	98.83	▲ 0.9%
生産量	368.52	358.00	388.01	383.01	7.0%
輸入量	165.55	157.08	164.32	164.07	4.4%
消費量	315.94	312.89	327.32	323.90	3.5%
輸出量	164.99	153.89	167.53	167.47	8.8%
期末在庫	99.75	98.83	103.52	102.03	3.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

れも前月から据え置かれたが、アルゼンチンが干ばつの影響などから450万トン下方修正されたことが影響した。また、ウクライナは作付面積の減少から同じく下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億6407万トン（同4.4%増）と前月から25万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2390万トン（同3.5%増）と前月から342万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は、国内での需要減少が見込まれることで前月に続き100万トン下方修正された。また、遺伝子組み換え大豆の輸入

制限の影響からパキスタンでの減少も見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億6747万トン（同8.8%増）と前月から6万トン下方修正された。このうち、アルゼンチンは減産見込により前月から150万トン下方修正されたが、最大の輸出国であるブラジルは前月から100万トン、隣国のパラグアイも50万トンそれぞれ上方修正されたことで、これを相殺している。

この結果、期末在庫は1億203万トン（同3.2%増）と前月から149万トン下方修正されたが、中国の在庫水準が高いことなどから引き続き1億トン台を維持している。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国の輸出量は前月に引き続き前年度比22.1%減と大幅に減少する見込み

USDA/WAOBは2023年2月8日、22/23年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、137億3000万ブッシェル（3億4876万トン^{（注1）}、前年度比8.9%減）と前月から据え置かれ、前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

消費量は、エタノールでの利用減少を受けて119億6500万ブッシェル（3億392万トン、同4.2%減）と前月から2500万ブッシェル（64万トン）下方修正され、前年度からやや減少すると見込まれている。

輸出量は、19億2500万ブッシェル（4890万トン、同22.1%減）と前月から据え置かれ、前年度から大幅に減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、12億6700万ブ

ッシェル（3217万トン、同8.0%減）と前月から2500万ブッシェル（64万トン）上方修正されたものの、前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、9.1%（同0.1ポイント減）と前月から若干回復したものの、依然として前年度を下回ると予測されている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり6.70米ドル（920円。1キログラム当たり36.2円：1米ドル=137.33円^{（注2）}）と前月から据え置かれ、前年度からかなり大きく上昇し、引き続き高値が予測されている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2023年2月8日米国農務省公表）

区分	一単位一	2020/21年度	21/22年度 (推計値)	22/23年度			
				(1月予測)	(2月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	90.7	93.3	88.6	88.6	35.9 (百万ヘクタール)	▲5.0%
収穫面積	(百万エーカー)	82.3	85.3	79.2	79.2	32.1 (百万ヘクタール)	▲7.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	171.4	176.7	173.3	173.3	10.9 (トン/ヘクタール)	▲1.9%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,377	1,377	34.97 (百万トン)	11.5%
生産量	(百万ブッシェル)	14,111	15,074	13,730	13,730	348.76 (百万トン)	▲8.9%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	24	50	50	1.27 (百万トン)	2.1倍
総供給量	(百万ブッシェル)	16,055	16,333	15,157	15,157	385.00 (百万トン)	▲7.2%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,074	12,484	11,990	11,965	303.92 (百万トン)	▲4.2%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,607	5,718	5,275	5,275	133.99 (百万トン)	▲7.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,467	6,766	6,715	6,690	169.93 (百万トン)	▲1.1%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,028	5,326	5,275	5,250	133.36 (百万トン)	▲1.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,747	2,471	1,925	1,925	48.90 (百万トン)	▲22.1%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,821	14,956	13,915	13,890	352.82 (百万トン)	▲7.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,242	1,267	32.17 (百万トン)	▲8.0%
期末在庫率	(%)	8.3	9.2	8.9	9.1		0.1ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.53	6.00	6.70	6.70	36.2 (円/kg)	11.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

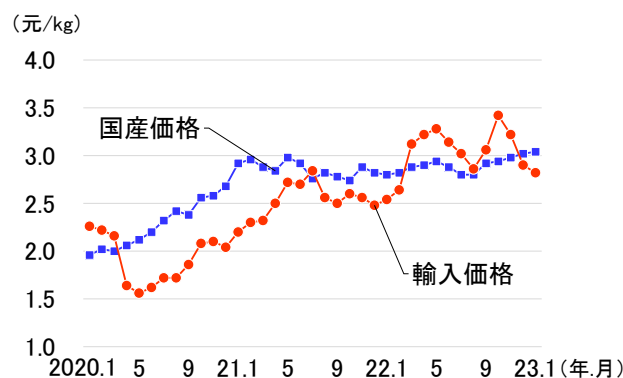
(調査情報部 峯岸 啓之)

中国

国産トウモロコシ価格、需要増から高値安定での推移を予想

中国農業農村部は2月20日、「農産物需給動向分析月報(2023年1月)」を公表した。この中で、2023年1月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇している(図1)。国内のトウモロコシ需給を見ると、春節明けのトウモロコシ市場では取引が徐々に活発化する中で、農家からの出荷の遅れから供給量はややタイトな状況にあるとされている。一方、需要面では、豚飼養頭数の増加による安定した飼料需要に加えて、トウモロコシ加工業者による在庫の補充も進むとされている。このため、国産トウモロコシ価格は、需給がややひっ迫傾向にあることで短期的には高値安定での推移が見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内：課税後)。

各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、23年1月が1キログラム当たり2.82元（56円：1元=19.88円^{（注）}）となった。22年3月以来、国産価格を上回って推移していた輸入トウモロコシ価格は3カ月連続で下落し、国産価格を下回っている。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同3.04元（60円）に比べて同0.22元（4円）安とさらに広がっている。

国産大豆価格、潤沢な供給により弱含みで推移と予想

2023年1月の国産大豆価格は、前月に続きわずかに下落している（図2）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面では、大豆生産量の大幅な増加により産地の在庫水準が高いことに加え、国家備蓄在庫から旧穀の放出が行われていることで市場供給量は潤沢とされている。一方、需要面では、春節が明けて川下の需要は改善に向いつつあるとされている。このため、需給はやや緩和傾向にあり、

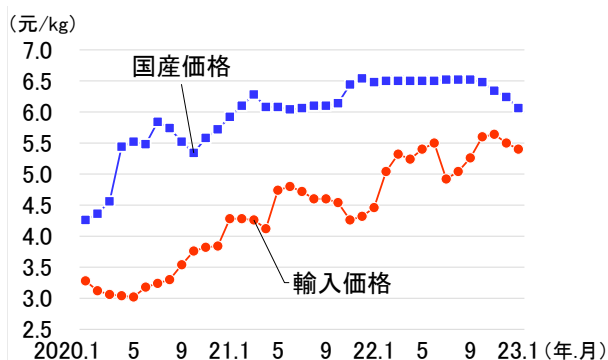
価格は安定ながらも弱含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、23年1月が1キログラム当たり5.46元（109円、前年同月比9.7%高）と高い水準ながらも下落傾向にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.06元（120円、同6.4%高）と同じく下落傾向にある。国産大豆価格と輸入大豆との価格差は、国産大豆価格が下落する中で、1キログラム当たり0.66元（13円）とわずかに縮まった。

大豆の輸入量については、前年に比べて減少しつつも引き続き高い水準で推移している。22年（1～12月）の輸入量は9109万トン（前年比5.6%減）、輸入額は世界的な穀物相場高の影響から同14.3%増の612億5300万米ドル（8兆4119億円：1米ドル=137.33円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の59.7%）、米国（同32.4%）、アルゼンチン（同4.0%）であった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年2月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

2023年中央1号文書を発表、農畜産物生産の安定と供給の確保

中国共産党中央委員会と中国国務院は2月21日、「2023年中央1号文書」である「2023年の農村振興における重点活動の全面的推進に関する中国共産党中央委員会と国務院の意見書（2023年1月2日）」を発表した。この中央1号文書は、その年の最初に発出される最も重要な政策であり、14年以降、20年連続して「三農（農業、農村、農民）」の問題に対処したものとなる。

今年の中央1号文書では九つの項目が示されているが、昨年に続き穀物や重要な農畜産物に焦点を当て、生産の安定と供給の確保を明確に指示している。また、このためには農村への効率的な投資や農民の所得向上に向けた対策なども不可欠としている。

現地専門家によると、食料安全保障は一貫

して重要な位置を占めているが、特にコロナ禍で生じた貿易の混乱や食料の輸出制限などが国際需給に複雑な変化をもたらしたことで、中国の食料輸入にも大きな影響を及ぼしたことを踏まえたものとしている。このため、昨年に初めて生産能力の強化が示された大豆など、特に輸入量が多い農畜産物については、引き続き生産の強化を図り、輸入依存からの脱却が求められている。

今回の発表に際し中国国務院は、巨大な国内人口を擁する中で食料需要は依然として堅調に伸びており、世界の農業貿易の不確実性と不安定性が大幅に高まっている中で、国内生産の確保が求められるとしている。このため、次のステップとして、複数の対策を同時に行い、食料安全保障基盤を全面的に強化するための包括的な取り組みを行う必要があるとしている。

（調査情報部 横田 徹）